

特集 わかやまのいっしょをわっしょい知んべい、わっしょい草花いっしょ

ふるさと教育の推進

01 | ふるさとのすがた



「わかやま何でも帳」を授業で活用

「わかやま何でも帳」は、「ふるさと和歌山」への興味・関心をより高め、ふるさとを愛し、そして、ふるさと学習に取り組めるよう作成したふるさと教育副読本です。

今回、各種データを更新するとともに、「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」、「南紀熊野ジオパーク」、県の観光や防災対策などを追加・充実する内容に改訂しました。

県内すべての学校に配付し、授業等で活用しています。なお、県内の中学生には、全員に配付しています。一般販売も行っていますので、ぜひご購入ください。

松下 幸之助 (まつした こうのすけ)

1894(明治27)ー1989(平成元)年

世界のパナソニックの創業者……「和歌山市に生まれる」

和佐村(現和歌山市)に生まれる。父が事業に失敗し、9歳で小学校を中退。大阪へ丁稚奉公に行く。15歳の時、大阪市内を走る市電を見て、大阪電灯の配線工となる。最年少で検査員に昇格するが、自ら考案した改良ソケットを事業化するために独立し、1918(大正7)年「松下電気器具製作所」を創立する。「改良アタッチメントプラグ」「二股ソケット」が好評を博す。

戦後「三種の神器」と呼ばれた家電製品を世に送り出して電化ブームを牽引する。海外へも積極的に展開し、日本企業のグローバル化の先駆けとなる。

他にも1946(昭和21)年PHP研究所設立。1980(昭和55)年松下政経塾を開塾し、1982(昭和57)年には「日本国際賞準備財団(1983年国際科学技術財団と名称変更)」設立した。

松下幸之助シンポジウム～神様の経営と和歌山の精神～を東京で開催

日時：平成28年12月17日(土) 13:30～16:30 場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーホール

「和歌山県民歌」を歌うことができますか。



和歌山市立貴志中学校

県内の小・中学校の音楽の授業でとり上げ、卒業までに歌えることを目標に、県民歌の普及を推進しています。

作曲者は「赤とんぼ」で有名な山田耕柝です。作詞者は西川好次郎で、南国紀州を愛する情熱を傾け、平和へ、勤労へ、希望へ真心を込めて作詞しました。

小・中学校の音楽の授業で歌えるように、CDを制作しました。紀北地域の学校には和歌山市立貴志中学校、紀南地域の学校には、田辺市立東陽中学校合唱部のみなさんの歌声がおさめられたCDを配付しています。

和歌山県民歌

西川好次郎／作詞
山田耕柝／作曲



- 1 ほのぼのと かおる浜木綿
陽に映ゆる 緑の起伏
和歌山は 常春の国
人の和と 文化を添えて
いや更に 伸びよ栄えよ
ふるさとは つねに微笑む
- 2 南国の 息吹ゆたかに
野は稔り 街はおどる
和歌山は 幸を生む国
汗に明け 火花に暮れて
いや更に 伸びよ栄えよ
ふるさとは つねに微笑む
- 3 くるがねの 軌道ゆくところ
黒潮のしづきはめぐる
和歌山は 明日を呼ぶ国
とこしえの 若さに乗りて
いや更に 伸びよ栄えよ
ふるさとは つねに微笑む

こちらのQRコードから県民歌をご視聴いただけます

02 | ふるさとの自然・文化

世界遺産追加登録、決定へ「紀伊山地の霊場と参詣道」

ユネスコに対し提案していた世界遺産追加登録について、その諮問機関(イコモス)から「承認」が勧告されました。それを受け、7月10日からトルコ・イスタンブールで開かれているユネスコ世界遺産委員会で正式決定されます。

これにより、平成16年の登録時に世界遺産となっていなかった地点について、かねてより現地住民の方々等と一丸となって進めてきた取り組みの成果が認められます。

今回の追加登録で、世界に誇れる和歌山県の宝が増えたことを大歓迎すると同時に、後世に伝えていくという我々の責務もさらに大きくなったことを実感しなければなりません。

なお、追加されるのは、以下のとおりです。



とんぼい 關雞神社(田辺市)
※追加登録地点のひとつ

熊野参詣道 中辺路 9地点
熊野参詣道 大辺路 9地点
高野参詣道 4地点
(登録面積 11.1ha増、
参詣道延長 40.1km増)
※今回追加されるのは
和歌山県内の地点のみです。

平成33年度第45回 全国高等学校総合文化祭の開催地に和歌山県が内定!!

全国高等学校総合文化祭は、国内最大規模の高校生芸術文化活動の発表の場です。全国から約2万人の高校生が、演劇、合唱、吹奏楽、郷土芸能、書道、新聞などの部門に参加します。また、総合開会式やパレードも行う予定です。今後、準備委員会を設置し、準備を進めていきます。



橋本高校

03 | 和歌山を担う人づくり

本県では、県内の様々な事業所と連携して、小学校では職場見学、中学校では職場体験、高等学校ではインターンシップを実施しています。

また、高等学校では、民間企業経験者を就職指導員として配置し、企業等と学校をつなぎ、高校生の県内就職を支援しています。

このような取り組みを通して、地元にある素晴らしい企業等への理解を深め、将来、地域のリーダーとして活躍する人材や地域の発展を支える人材の育成をめざしています。

「鯨とともに生きる」が日本遺産に認定されました

日本遺産とは、地域の歴史的魅惑や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、地域の活性化を図ることが目的で始まった国の制度で、熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」が、4月25日、日本遺産に認定されました。



河内祭の御舟(串本町)

江戸時代ははじめ、鯨を打ち込んで鯨をとらえる古式捕鯨が太地周辺に住んでいた人々により始められ、熊野灘沿岸地域の産業を支える存在に発展しました。鯨は肉や油だけでなく、皮や骨、ひげなども生活用品として使われるなど余すことなく利用されました。鯨に対する感謝と崇拝の形として、供養碑が建立され、河内祭や、鯨踊りなどの伝統芸能が今も受け継がれています。

世界農業遺産認定「みなべ・田辺の梅システム」



世界農業遺産(GIAHS)とは、国際連合食糧農業機関(FAO)が、2002年に開始した仕組みで、次世代に受け継がれるべき重要な伝統的な農業(林業・水産業を含む)、農村文化、農業景観などを全体として認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。これまでに、世界で15カ国36地域、日本では、みなべ・田辺地域を含め8地域が認定されています。

「みなべ・田辺の梅システム」とは、養分に乏しく崩れやすい里山の斜面に梅林を配置し、その周辺には、紀州備長炭の原料となるウバメガシ等の林(薪炭林:しんたんりん)を残すことで、降雨を貯えて洪水を抑えるとともに、斜面が崩れるのを防ぎつつ、薪炭林に住むニホンミツバチを梅の受粉に利用しながら、400年にわたり高品質な梅を持続的に生産してきた農業システムのことです。



みなべ・田辺の梅システムの概要図

応募前サマー企業ガイダンス2016を開催



県が中心となり、6月16日(木)和歌山ビッグホール・ビッグウエーブにおいて、高校3年生を対象にした、県内企業等(107社)の大規模な企業説明会が行われました。



就職を希望する高校3年生のほぼ全員にあたる約2300名が参加し、各企業等のブースを回わり、採用担当者等から企業の事業内容等の説明を受けました。

参加した高校生からは、「人の役に立てる仕事に就きたいです。」などの感想がありました。